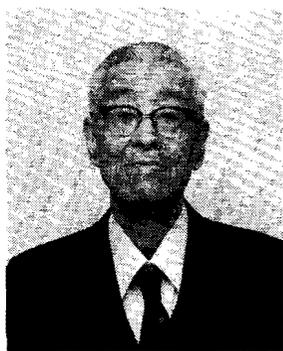


追悼の辞



谷口知平先生を偲んで

宗教学会の創立者でもあり、宗教学研究の指導者でもあった谷口知平先生は、八三歳を一期とされ、一九八九年一月八日にご逝去された。先生は、龍谷大学法学部において宗教法に関する論文を多角的に発表されるとともに、宗教学の理論的發展のための学会の設立に精力的に活動され、一九八〇年一〇月には、川島武宜先生と共に、宗教学会を創立された。

一九七三年頃から、先生の提唱、指導で、科学研究費の助成を受け龍谷大学宗教学研究会が組織され、宗教学の研究を始めたが、その後七七年頃に先生は、「宗教法に関する研究を龍谷大学だけに留めておくのは学問の發展の上からも疑問だ。なんとか全国的な規模で宗教学の学会を呼びかけてはどうだろうか」と、宗教学会の設置を熱心に提唱された。そしてよく七八年に、川島武宜先生を有楽町の事務所を訪ね、そこで宗教学会の設立の話がどうにか具体化したのである。しかも学会の創立当時の理事の先生方の多くは谷口先生の働きかけで、学会創立に参

加されたものと記憶している。谷口先生のこのような宗教学会創立の熱意なくしてはあるいは学会の創立は数年後にずれ込んだかも知れない。この意味でも先生は文字どおり宗教学会生みの親といふべきであろう。

宗教学会創立準備会が、文部省宗務課の好意によって、文部省特別会議室で数回開かれたが、そこで参加の諸先生方とともに「宗教法とは何か」という定義付けについて、喧々がくがく議論に花が咲いたのも谷口先生を巡る楽しい思い出である。

宗教学学会が設立されてからは、初代理事長として学会の発展のために先頭たつて献身的に努力され、また他方では、宗教法に関する論文を多角的にかつ精力的に執筆され、学会の理論的発展に大きく寄与された。とくに先生が、昭和五一年六月に編集代表として刊行された「宗教法入門」(新日本法規出版発行)に執筆された第二章「宗教法と宗教法人と民法」(八二頁)で、実質的法人としての宗教団体の性質について、「偉大な宗教創始者(祖師・教祖)が一定の教義をひろめ、宗教上の儀式を行い、信者を教化育成する布教活動を行う場合に、この教祖に淨財を寄進し礼拝の施設を提供して共に信仰生活に入る信者と、この教祖とが一体となって信仰集団を形成するようにになると、その礼拝施設は教祖の個人財産という觀念が漸次淡くなって信仰集団財産として概念せられるようになり、……その礼拝施設は、信者と結びつき教祖個人の支配をはなれて独立した概念的信仰集団の財産となり、そこには必ずからその信仰集団の主宰者や統制者の定め方やその財産の管理などについて一定の組織や秩序が形成されることになる。」と論じられている点などは、まだ宗教法とはどのような学問か明かできなかった当時としては、大変刺激になり、今日でもこのような先生の論文は、随所でわれわれに教示しするところがある。

宗教学理論の指導者であり、宗教学学会の創立者である谷口先生が逝去されて、三年を経過している。先生がこの学会の目標とされた宗教学の世界的規模での発展のために、われわれ会員ができる限りの精進をして学会のよ

り一層の充実に努力することこそ、学会に対する先生の期待に報いる唯一の途であろうと考える。
改めて、先生のご霊前にお誓するとともに、ご冥福を心からお祈りする次第である。

一九九三年一月二〇日

宗教学会理事

安武敏夫



川島武宜先生の逝去を悼む

宗教学会・前常務理事、川島武宜先生は、さる一九九二年五月二日に亡くなられた。

われわれ会員はさきに、本会の名実ともに創立者であるところの谷口知平先生を失い、さらに今春、創設以来谷口先生を佐けてこの学会の定礎、発展に尽くされた川島先生を失う。なんとも痛恨哀惜の感にたえない。

故谷口先生は、この学会の設立を考えられた当初、安武敏夫教授（現常務理事）とともに、まず小野清一郎氏、ついで川島先生を歴訪され相談された、という（安武敏夫「谷口先生を偲んで」『宗教法研究』第一〇輯、六頁）。

やがて川島先生は、一九八〇年一〇月の宗教学会設立準備委員会では谷口先生とともに理事として組織作りをなされ、設立後先生は谷口理事長のもと常務理事となり、一九八九年に辞任されるまで、学会のために尽くされた。

川島先生は長年東京大学において民法学を講じられ、民法学のみならず法社会学・法学方法論において絢爛たる業績を残されたことについては、いまさら紹介するまでもない（その全体像については、例えば、『ジュリスト』

一九九二年二月一日号所収「川島法学の軌跡」あるいは『法律時報』一九九三年一月号所収「川島法社会学の軌跡と展開」、参照)。大学を定年退官後、弁護士として法曹実務につかれ、この間に宗教裁判にも関わり、その裁判記録は宗教法研究者にとって示唆するものすこぶる多い。

けだし、今日みられるような宗教学学会の発展の基礎は、学会草創期における谷口先生の温厚な包容力ある識見と、併せて川島先生の峻烈な学究的情熱とによって固められたというも過言ではない。いま私どもは、学会が向後さらに優れたより豊かな成果を挙げるよう研究協同することによって、先生の勵志に応え、盡力に報いたいと思う。

一九九二年二月二〇日

宗教学会云理事長 小林孝輔